



BEST BRASS◎濱永晋二  
トランペット設計の思想



有限会社ベストブラス  
1999年11月24日創業。  
代表取締役：濱永晋二  
〒430-0821 静岡県浜松市南区西町314  
電話：053-401-5256  
FAX：053-401-5257  
bestbrass@msi.biglobe.ne.jp  
営業時間：月曜日～土曜日  
9：00～18：00  
※日曜、祝日は休業。

— 2008年に発売された「グルーヴ (GROOVE) シリーズ」のマウスピースは、これまで世界に例がなかったアイデアで開発されています。

濱永「グルーヴ (溝)」と「マルチレングス」という二つの概念をマウスピースに導入したのは我々が初めてです。金管のマウ

ス。そんな「偽物」を売ってはいけない。今僕たちがマウスピースでやらなければいけないのは、やはり基本的な性能をアップさせることでしよう。では「マウスピースの性能とは何か？」ということですね。

その前に考えなければいけないことが一つあるんです。楽器

## グルーヴとマルチレングスの 画期的なアイデアはM P sの基本 性能を考えることから生まれた。

スピースはこれまで、ヴァイセント・バックが開発したノーハウがただコピーされて来たと言っても過言ではないと思うのですが、我々はグルーヴとマルチレングスのアイデアを導入することで、次世代のマウスピースの扉を開きたいと考えているんです。

ヴァインテージの良いマウスピースをコピーするのはナンセン

というの、主管抜き差しを適度に抜くことで本来の性能が発揮されるように設計されている、ということなんです。

— なぜ抜いた状態を基準にして作られる？

濱永 ピッチは温度が1度上がるごとに4セント上がります。気温によってピッチが変わりますから、楽器にはある程度ピッチの融通性が必要ですよね。ピ



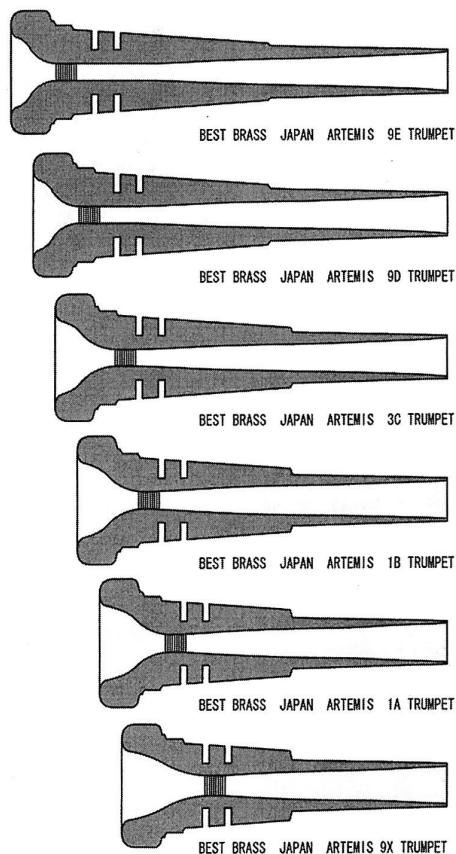
### マルチレングス

カップの深さによってピッチが変わらないようにマウスピースの全長を変えたのがマルチレングス。上の左端は最も浅いカップ、右端はフリーゲルホルンの深さのカップ。どちらを入れても主管抜き差しを調整せずに同じピッチが出る。

ツタリに作ってしまったら、気温が低くてピッチを上げたいときに使えなくなる。それで、平均約12mmほど主管を抜くことを前提に楽器を設計するわけです。ところが、カップの浅いマウスピースを使っている人はどうしても楽器のピッチが高くなってしまい、主管を30mm以上抜かないといけなくなったりします。アマチュアの方など、ピッチが舞い上がってしまった、主管をそんなに抜かなければいけない事態になると「自分の奏法は間違ってるんじゃないか？」と思ってしまう。でも、ホルンのあのザイフェルトさんですら、そんなマウスピースを使うとピッチがすぐく上がるんです。だから、ザイフェルトさんの楽器は主管抜き差しを片側30mmも長くしている。抜かなくてもいいようにね。ザイフェルトさんのような名手でも、主管抜き差しをたくさん抜くことには違和感を感じている。楽器のバランスが狂ったように感じるわけです。

考えてみれば不思議ではないですか。なぜこの問題が取り上げられずに100年も来てしまったのか？ 人それぞれに違う長さの主管抜き差しを提供できるわけがありませんから、マウスピース・メーカーとしては何とかしてマウスピースでこの問題を解決したい。つまり、どんなカップの深さのものでもきちんとしたピッチが出るマウスピースを作りたいです。

トランペット用マウスピースのカップと全長の関係



——主管抜き差しを平均約12mm程度抜くことを前提に設計するとおっしゃいましたが、その時のマウスピースはどんなものを基準にするのですか？

濱永 設計の現場では、だいたいバックという3C、ヤマハなら14B4ぐらいが基準です。やや大きめですが、そのあたりが設計データの元になります。

——マウスピースが長ければピッチは低くなるわけですね。

濱永 ええ。ただし、どのくらい長くすればどの程度ピッチが低くなるのか、それをカップの深さ・浅さとの関係で決めるの

はとても難しい問題なんです。それを我々は研究しました。そうした研究も我々は全部、図面で行います。その図面を見れば、カップの深さに対応した長さが一発で決まります。楽器がきちんと作られていさえすれば、ピッチに関してはほぼこれで満足できる結果が得られるわけです。

——つまり、カップの深さに応じた最適なマウスピースの長さを、独自の計算によって割り出したのが「マルチレングス」ということですね。

濱永 そうです。例えば、グループ・シリーズの一番長いもの



BEST BRASS◎濱永晋二

トランペット設計の思想

バックボアやスロートも絡んで来ますから、とても複雑な設計になるでしょうね？

濱永 誰もまだやっていませんから、すべて自分たちで考えました。そのノーハウは今のところ我々にしかないでしょうね。

——主管抜き差しを抜く。逆に1Bは深いからピッチが下がり、抜き差しを入れる。そういったことが100年近くも行われて来ました。それはおかしい。マウスピース・メーカーとしては、どのマウスピースを差し込んでもある程度一定のピッチが出るものが大事だと考えなければいけない。そこから導き出されたのがマルチレングス・システムなんです。

——コレネットにはアメリカンとブリテイッシュがあり、そのマウスピースの長さが違うのはご存知ですか？ ショートモデルのブリテイッシュではマウスピースが短く、アメリカンタイプは長い。ところが、どちらもシ

ランペット、コレネット、フリーゲルでは特に素晴らしい結果が得られます。なぜか今までこのことに誰も気がつかなかった。

コレネットにはマルチレングスが存在した！

先行例がなかったわけでは無いんです。実は、コレネットの世界にはマルチレングス・マウスピースがありました。

カップの深さに関係なく一定のピッチが出るマウスピースは今まで世の中になかった！

と、フリーゲルのカップを持った一番深くても短いものと、どちらも同じピッチが出ます。これは今までは考えられなかったことなんです。

今までは、フリーゲルのカップを持ったマウスピースはピッチがとも低くなってしまっていた。バックには素晴らしいマウスピースのラインナップが揃っていますが、3Cに比べると7Eはカップが浅いからピッチが上がります。上がるから、

これをトロンボーンやホルンにも展開したのがベストブラスの「グループ・シリーズ」です。ホルンでは右手をベルに入れまじすし、トロンボーンも上手な人は第1ポジションでスライドを少し抜くなど、ホルンやトロンボーンでは元々そうした融通をきかせていたので、あまり問題視されなかったことは分かります。しかしトランペットでは、ある決められた長さで吹くわけですから、マルチレングスはト



ヤンクは全く同じ口径で、双方の楽器に差し込めます。マウスピースの長さだけが違い、楽器も違う。

楽器が違うと言ってもフランスやイギリスのコレネットがアメリカに渡り、楽器が少し長くなっただけで元は同じ楽器です。だけど、楽器の長さに応じてピッチがきちんと取れるようにマウスピースを改良して来た。イギリスはイギリスで短い長さで改良し、アメリカはアメリカのコレネットに合うように改良した。これこそマルチレングスなんです！

それに気づかずに、今まではロングタイプ用とかアメリカン・コレネット用、ショートモデル用とか言ってきたわけですね。これはある意味、大きな言い間違いです。つまり、マウスピースの長さが違うのは、プリティッシュ・コレネットではカップが深いから短いです。逆に、カップが浅いアメリカン・コレネットの音色を求めるには、マウスピースは長くないといけない。生まれは一緒だけれど育ちが違う、結果的に求められるマウスピースの長さが決まってきた。それは正に私たちが言うマルチレングスです。

アメリカン・コレネットもプリティッシュ・コレネットも、同じマウスピースのシャヤンクを持っているわけですから、当然、浅いカップだと長い必要がある。それを私たちが開発した理論で

計算すると、なんと今使われているプリティッシュの長さと同様にアメリカンの長さがズバツと現れ

## スロートに溝を付けることで唇が閉じるために働く筋肉を少しだけ補ってやる……。

ました。100年かけて市場に導かれて出来た数値が、じつは理論値どおりだった。これは素晴らしいことじゃないですか！アメリカンとプリティッシュに分かれてそれぞれが独自に見つけて来た長さですが、言い換えれば、当然見つかるべき長さだった。マルチレングスの考え方からいわせれば、そう言えます。

——素晴らしい符合ですね。  
濱永 コレネットはともかく、トランペットでも「自分の吹き方が間違っているんじゃないだろうか？」というプレイヤーの不安を僕は無くしてあげたい。うちのマウスピースを付けてもピッチに問題が出たとすれば、それは楽器がおかしいか、吹き方がおかしいと言ってもよいと思いますよ。

バテのメカニズムから開発されたグルーヴの秘密

——もう一つのグルーヴのアイデアはどこから？

濱永 トランペットを作るときでもそうですが、「現在のマウス

### グルーヴ

スロート部分に彫ってある溝（グルーヴ）が吹奏時の唇の働きを補助する役割をはたし、高い音が出しやすく、よりバテにくくなる。カップ内面がツルツルに磨かれていないことにも注意。これも唇が閉じる圧力を発生させるための仕掛けで、グルーヴと同じような効果がある。これによって、スロートを大きくすると大音量が得られるかわりに早くバテる、という二律背反的な問題を解決した。



「ピスは根本的に何が問題か？」と考えるのが我々のやり方です。昔のマウントヴァーノンが一番良いと言っている人がいて、それはそれでいいんですが、それをコピーして売ろうなことは僕たちはやりたくない。

「そんなことより、もっと基本的な問題がマウスピースにはあるのではないか？」と考えたときに、「トランペットはバテやすい」ということに注目したんですね。「バテるといふのはどういうことだろうか？」と。例えば、フレーズの最後にハイBbでキメなければいけないとき、ソ、ラ、シまで音が出て、最後に「プスー！」とやるのがよくあるでしょう？ これでみんなガツクリくる（笑）。

でも「プスー」ということは、息は出ているということなんです。ブルブルと唇が振動してないだけの話。唇というのは秒速何回の振動などとコントロールすることは出来ません。ある緊張を与えることしか出来ない。その緊張を与えたいけれど、力がなくなるとバテてしまふ、最後のハイBbで唇が開いてしまふ。

そのとき、スロートに溝（グルーヴ）を付けることで、唇が閉じるために働く筋肉を少しだけ補ってやるのが出来るんです。すると、今まで10分しか吹けなかったものが、12分でも13分でも吹けるようになる。同じ音量でも八分目の力で吹けるようになる。下の音も安定する、





ベストブラスの工房にてスタッフ全員と愛犬のマーロン。前列右が営業全般を取り仕切る息子の濱永康太さん。「品質の高さは海外で早くに認められています。あとは僕の方でもっと有名にしたい!」。後列右が寺島さん。「大量生産の現場とは全く違い、作ったもの一つ一つに愛着が湧きます」左は重村さん。「何でも挑戦という感じで、毎日がすごく面白い!」

ということになります。

——もう少しそのメカニズムを教えてください。

濱永 九州芸術工科大学(現・九州大学)の先生(吉川茂教授)が透明のマウスピースでホルンの唇の震え方を調べた研究がありますね(本誌263号に掲載)。それを見ると、上級者の唇は単なる前後運動で、初心者はいろんな方向に唇が動いて定まらなかつた。要するに、唇は単純に振動するのが一番いい、ということでしょう。

その振動を得るために何が一番必要かという点、「安定感」で

## スロートを大きくしながら バテにくいマウスピースにしたい。 それを可能にしたのがグルーヴ。

す。唇が自然に震えるための安定した状態を保てるかどうかという点。唇の筋力が必要でしょうし、しっかりと大きなエ

アタンクからお腹で支えられた一定した息の流量も必要でしょう。流量と云っても、たぐさんの息ということではなく、安定した息を与え続けるということですね。それ、ものすごい息のスピードが必要なのではなく、唇が振動するために必要な圧力を与え続けるだけでよい。

唇を閉じるためには、普

通は筋肉で閉じます。開くためにはエアの力で開く。カップもスロートもついていないリムだけのビジュアライザーというマウスピースの道具がありますが、あれでやると普通は長くは吹け



BEST BRASS © 濱永晋二

トランペット設計の思想

ません。なぜかという点、スロートもカップもないからです。それがないとなぜ吹けないのか? 唇の振動には、トランペットの管体の共振特性によって唇が振動しやすい状況が生まれることが一番重要なのですが、もう一つは、物理的に吹き込んだ息の返りが唇にかかることも重要なことです。そこで少し筋肉に手助けをするものがあればなお良いわけです。それによって筋肉の力が和らげられ、楽になりますから。そういったことを可能にしたのが、このグルーヴなんです。





これはカップの中の内面の粗さも影響します。うちのマウスピースを見ていただくと分かりますが、内面がピカピカツルツルじゃない。ツルツルにすると当然、空気の摩擦係数が減りま

要なんです。スロートを大きくするとバテますが、良いこともあります。効率良く大きな音が出せるんです。スロートを大きくしながら、しかもバテにくくしたい。そうしたこともグルーブによって解決できます。グルーブとカップの内面の仕上げで、大音量も出せるしバテもなかなか来ないという新しいマウスピースが生まれたわけです。

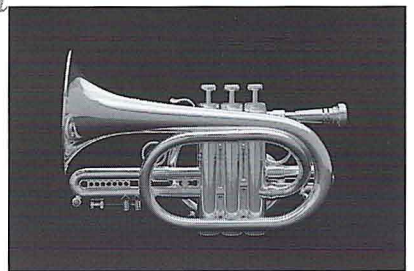
溝は螺旋状に刻んであるのですか？  
濱永 それは企業秘密です(笑)。

## 才能が一緒であればグルーブ マウスピースで育った人の方が 早く上達すると信じている。

うわけですね。  
濱永 これからこのマウスピースで育っていく人たちがきつと出て来ると思っています。いわゆるベテランの方たちは、マウスピースをなかなか変えようとはしません。自分の唇を変えようなものですからね。  
でもこのマウスピースで取り組んで行けば、才能が一緒であれば、より早く上達するはずだと僕は確信しているんです。バテないし高い音も出しやすいわけですから。今

まではみんなが無理をしながら頑張ってるんですけど。  
こんなポケットトランペットも世界に例がない!?  
——3回にわたってベストブラスの「トランペット・イノベーション」をご紹介して来ましたが、最後にベストブラスのラインナップに新しく加わった可愛いポケット・トランペットをご紹介します。  
濱永 ベストブラスのトランペットはBb管から始まり、C管と来て、次に出すのは商売的にはピッコロの方がいいんですが、その前にきちんとEb・D管を作り、そして昨年末に発売したピッコロトランペットというように、きちんと順番通りに世に出して来ました。その間、ちょうど10年。このポケットトランペットは、この創業10周年の記念モデルとして、ちよつと遊び心を加えて作ってみました。  
小さな可愛いトランペットですが、うちが作るなら妥協なしにちゃんとした楽器を作ろう、そう思って作った楽器です。3番管がまっすぐに伸びて、トリガーが使えます。こんなポケットトランペットは他にあまりないはずですよ。普通のBb管のトランペットで、素晴らしい音が出ますよ。ひよつとしたら、皆さんうちの製品をばつと見て、まず最初に欲しくなるのはこれじゃないかな。(笑)

### Artemis Pocket Trumpet



アルテミス・ポケットトランペット 創業10周年記念で作られた最新モデル。第3 抜差にトリガーが付き本格的なBbトランペットとして作られている。「通常のトランペットと音量、吹奏感、機能性など優るとも劣りません」(濱永氏) 価格は850,000円(税抜)。